重症心身障害者地域生活支援センター

第15号

大　地
（じねんじょ通信）

発行者：社会福祉法人じねんじょ
発行日：平成23年 4月 1日
ＴＥＬ：083-252-2227
ＦＡＸ：083-252-2259
E-mail jinenjo@jinenjo.or.jp
http://www.jinenjo.or.jp

8年目の胎動

社会福祉法人じねんじょ
理事長　　金原洋治

8回目の春を迎え、皆様に植えていただいたじねんじょも、かなり太く長く育って参りました。皆様におかれましては、じねんじょをご支援いただき感謝しております。

政局が大変混迷しておりますが、平成22年の12月10日に、「障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律案」（つなぎ法）という大変長い名前の法律が交付されました。このつなぎ法は、平成24年4月1日に施行されるまでの期間までに障害者の地域生活支援のための法律の改正です。当法人にとっても、家族や当事者にとっても大切な法律ですので、その骨子を紹介させていただきます。

つなぎ法案の概要

1）　応能負担が原則の明確化：補装具も合算し負担軽減
2）　発達障害を障害者の対象となることの法律上の明示
3）　相談支援体制強化：市町村に基幹相談支援センター設置，自立支援協議会の法律上位置づけ、サービス等利用計画対象者の大幅な拡大
4）　障害者支援の強化：障害者施設の一元化、放課後等デイサービス創設・保育所等訪問支援創設、在園期間延長により18歳以上の入所者を障害者施策で対応
5）　地域における自立した生活のための支援の充実：グループホーム・ケアホーム利用の際の助成を創設（居住費用助成）、重度の視覚障害者の移動支援サービスの自立支援法の個別給付化（同行援護）

このつなぎ法により、平成24年度の障害者自立支援法改正までのスケジュールと平成24年度以降の制度改革の方向性が示されました。

当法人においては、3月31日をもちまして、むかご（下関市障害児者デイケア事業）が行政の方針で事業が終了しますし、平成24年4月以降、むく（重症心身障害者通園事業Ａ型）も新たな通園体系の仕組みに位置づけられますので、今後の国の方針を見ながら、施設全体の今後の在り方の検討をより具体的に行う必要があります。

今年度からの新たな事業展開に向け、ご相談したいと思いますので、ご協力ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

平成２３年度　年間行事及び参加する行事予定

平成２３年

６月　じねんじょ公開フォーラム
７月　下関市レクリエーションボッチャ大会
８月　馬関祭り
８月　社協福祉大会（展示）
１０月　じねんじょフェスティバル
１１月　下関市障害者交流卓球大会
１２月　手をつなぐみんなの福祉フェスタ

平成２４年

３月　おもちつき

じねんじょ

本体

カラオケで大騒ぎ！！

やっぱり女性はショッピングよね(^_-)-☆
ゆめシティ

いやいや、やっぱり女子会よね
アンシャーリー

次はどこへ
行こうかな？

分場 だいち

い～ぱい　外出しました♪
地域の皆さんお世話になりました

とっても親切な
ラウンドワンの
スタッフさんでした！

アートビレッジ39　藤井さん
ありがとうございました。

メンバー全員参加の大作が
下関美術館に展示されました。

外出ではないけれど・・・
家庭の行事
兄弟が多くても
ひなまつり

むく

むくっこ

ウォーターベット

夏はひんやり　気持ちいい～～

お正月

かわいいオリジナル

門松の完成

お花見へ行きました

桜もみんなも笑顔満開！！

春色ケーキ作り

見た目も味もばっちり！！！

クリスマス会

サンタにプレゼントもらったよ^^

ひかり童夢へおでかけ！！

遊んで、食べて、絵本見て・・・

ボディーペイント

からだ中に絵の具を塗って遊びました。

お姉ちゃんたちにらくがきされたよお～。

家族参観日

じねんじょ屋上でプール。

姉妹児も来てにぎわいました。

寄付者氏名（敬称略、順不同）　H22.9.1～H23.3.31.

やまぐち小児科　理事・評議委員会　さをり織サークル　じねんじょ保護者会　明本治男　六人会
かにの集い　梅光女学院幼稚園保護者会　落合商会　笹尾豊子　その他

たくさんのご寄付を頂ました。ありがとうございました。

むかご7年間の軌跡

2004. 7. スタート !!

むかごメンバーらしく、色んな所に
行ったり、見たり、聞いたり・・・
アクティブに活動してきました。
シーズンものや限定企画、室内でも
思いっきり楽しむのが
むかごメンバー！
そんなメンバーの笑顔が・・・
大好きだよーーー♪♪

2011. 3. ゴール !!

下関市心身障害児（者）デイケア事業「むかご」は平成 22 年度末をもって終止符を打つことになりました。これまでひとかたならぬご厚誼にあずかり、厚くお礼申しあげます。

事業開始以来、障がいを持つ子どもたちの放課後余暇支援を中心に、学校以外の生活支援をしてきました。総合支援学校の校長先生をはじめ多くの先生方と多くの地域の方々のご理解とご協力によって 7 年間活動をすることができました。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、「むかご」のメンバー、ご家族の皆様のご多幸を心よりお祈りしております。　むかご施設長　石塚　忠志

共に過ごしてきた 7 年間を振り返って今思う事は、楽しい時も辛い時も、メンバーと一緒でないと経験できなかったという事です。時には自信をなくし逃げだしたくなる事もありましたが、それを支えてくれていたのもメンバーでした。自分のとった言動や行動が、後にどう反応として表出されるのか、こだわりとして残ってしまうのか、今でも失敗例は私の心に深く刻まれています。

経験年数を重ねていく上で、自分の経験を活かせたかどうか自信はありませんが、それでも続けてこられたのは、メンバーと一緒に過ごす時間が大好きで楽しかったからです。

ここに書ききれない程、たくさんの思い出があります。これからも自分らしく過ごして、周りを笑顔で癒していってくださいね。

「みんなつながっている」はまだまだ有効です！いつでも遊びに来て、元気な顔を見せて下さい。本当にありがとうございました。

むかご主任　柴田　美枝

じねんじょの輪満開

ボランティア　三村悦子さん

昨年より『だいち』さんに時々お邪魔するようになりました。日々の活動のなかでは、少し戸惑うこともありますが、ミシンでの作品作りのお手伝いや、パステル画の制作のお手伝いでは、色を重ねていくと想像以上の仕上がりになり、いつも感動をもらっています。みなさんの感性の深さも健常者の我々にははかり知れないものがありますね。１月の成人の会ではご家族の愛情の深さに感慨深いものを感じました。

昨年、花壇に植えさせてもらった芝桜。小さなピンクの花をたくさん咲かせています。『だいち』の皆さんも、これからそれぞれの花を咲かせていって欲しく思います。

山口県立大学社会福祉学部　実習生　石原彩乃さん

実習ではじねんじょのメンバーさんと深く関わらせていただき、とても多くのことを学ばせていただきました。どのように関わっていけば良いのかが分からず実習前は不安ばかりでしたが、じねんじょのメンバーさんとの活動はとても楽しく、不安は消え、今では寂しさを感じています。短い期間でしたが、本当にお世話になりました。

じねんじょってすごい

関門医療センター外科・集中治療室　井上　健先生

ある夜、関門医療センターの救急救命センターにＡちゃんが運びこまれました。Ａちゃんが、どのくらい実力をもっているのか、どう接したらいいのか分からなかった私たちはいくつもの壁にぶつかりました。そんな中、じねんじょ職員の方が１枚のパネルを持ってお見舞いにきてくれました。そのパネルによって私たちは、身体障害をもつ子どもたちが普通に「生活」しているということ、そこには家族やスタッフの方々の愛情に支えられ積み重ねたコツや工夫がいっぱい詰まっていることを学び始めました。Ａちゃんの病状が快方に向かうと、じねんじょを訪問して、どのように看ていったらよいのか相談しました。早く生活習慣をもとに戻す一入院中からじねんじょに通う！関門医療センター始まって以来の出来事です。看護師さんも送迎の運転手さんも最初びっくりでしたが、そのうち付添希望者まででて、送迎は生き生きしたものになりました。送迎時に垣間見る施設の温かさが心に残るのです。合計９日の通所を経て、Ａちゃんは元気に自宅退院を果たされました。いつじねんじょに連れて行っても、「あ、Ａちゃんおはよう！」みんなが声をかけてくれます。愛情や、時には緊張を感じ、みずみずしく反応する子どもたちを温かく包み込むこと、その中で生活できるということが幸せということかもしれない、そんなことを私たちにそっと教えてくれたじねんじょってほんと、すごい。

おじいさんのボランティア活動

ボランティア　河井正男さん　６１才

私をボランティア活動に引き込んだ女性は、すでに“だいち”で活動していた。ハイ S/W を押して、停めてと言いながら子供と一緒にミシンで縫っていて、生き生きとして若々しく見えました。自分はじねんじょの方で活動する事にしました。未知の体験で自分に何が出来るのか不安でしたが、そんな考えもすぐに解消しました。“おはよう”と云えば“おはよう”と返ってくるし、ニコッとした笑顔が何とも云えません。一緒に本読みをするとキラッと瞳が光り、歌を唄っていると楽しそうに体を動かしています。（音痴の私が歌っているのに･･･）孫たちと遊んでいる様で気持ちが癒されます。

おじいさんが遊びに来たなと思われる様、これからも歌を唄ったり、本を読んだり、暖かい日には散歩に出たりと自分にできる小さな活動からやっていきたいと思ってます。スタッフの皆さまこれからもアドバイスを宜しくお願いします。

山口県立大学社会福祉学部　実習生　安田麻美さん

重症心身障害者と聞くと、福祉を学んでいる私自身も身構えてしまっていましたが、実習を通してその壁がなくなりました。じねんじょでは、地域に出ていき、地域に根ざした活動を行っています。もっと広く地域に受け入れてもらえるようにするにはどうしたらいいか、私自身も勉学を積み重ねて将来につなげていこうと思いました。じねんじょで実習させていただくことが出来て本当に感謝しています。

山口県立大学社会福祉学部　実習生　上寺豊さん

私は、じねんじょで実習を行うことができて本当に良かったなと感じています。最初は不安でしたが、利用者の方との触れ合いや、職員の方の温かいご指導があり、不安な気持ちも次第に無くなっていき、とても充実した実習を行うことができました。障害という今まであまり関わる機会がなかった人達と共に過ごす事ができ、コミュニケーションの意味や、一人一人の強さを知ることが出来たのではないかと感じています。今回の実習で経験したことを今後の実習や、ボランティア等で活かしていきたいと感じています。

編集後記

桜のつぼみもほころび始める４月。じねんじょも８回目の春を迎え、地域へ飛び出しています。分場だいちも少しずつ地域に根付き始め、Ｊひろばでの地域活動も広げる予定です。

これからも新たなじねんじょを宜しくお願い致します。